

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームかほく
(ユニット名)	すみれ
所在地 (県・市町村名)	山形県西村山郡河北町
記入者名 (管理者)	縄 美枝子
記入日	平成 19年 5月 15日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	さくら福祉会の経営理念を基本に、職員で話し合いをした結果、各ユニットごと、その時にあった身近な月目標の方が良いのではとの事で月ごと2~3の目標をかかげ、職員にも利用者にも理解していただくように、ホールに大きく記載し意識するように心掛けていますが、事業所独自の地域に密着した独自の理念はつくっていません。	○ 職員ともう一度協議し、地域の中で暮らし続けるための事業所独自の理念を作成、文章化したいと思っています。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	経営理念と目標に関しては、意識し実践しています。	○ 職員ともう一度協議し、地域の中で暮らし続けるための事業所独自の理念を作成、文章化し、職員一同共有したいと思っています。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	運営推進会議などで、地域の方に事業所の存在と役割等をお話し、やっど町内会の中の事業所という認識をしていただいている。折に触れ、地域の催し物や行事には積極的に参加をしているが、「地域の中での理念」がきちんと文章化されていません。	○ 地域・御家族に理解していただくような理念を職員とよく検討し作成、文章化したい。
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣の人が気軽に覗ける立地条件ではないため、「気軽に立ち寄れる為にはどうすればいいか・・・」思案中です。まず、事業所の存在を知ってもらう事を重点的に行っています。ただ、最近野菜のおすそ分けや見学・ボランティア希望者を積極的に受け入れてはいます。	○ 町内会費を払っての町内会員ではなく、特別町内会員なので、正直回覧板を渡しあうなどの密接な関係にはなっていないので、会長等とも話し合い、より密接な関係になれるよう検討していきたいと思っています。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の催し物や行事には、積極的に参加しています。毎日の食材の買い物や散歩、自分たちの町内会の事業所である事を認識してもらうよう町内会のレクレーション大会やお祭りに参加しています。また、夏祭りを町の振興公社のご協力のもと開催し、誰でも気軽に参加できるようにしております。	○ 夏祭りを恒例化し、事業所の存在を広く町民の方に伝えられるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年7月で開所3年目になります。まだ、事業所内の基盤を固める事に精一杯でした。人材育成として研修生の受け入れや、居宅介護支援事業所を開設しており随時、相談業務を行っています。	○	運営推進会議等を通し、行政・町内会の方々と事業所としての地域で役立つ事ができないか検討していきたいと思えます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の指摘事項を職員へ報告し、各担当者と共に改善しているが、意義や変更になった評価内容を、十分に職員へ伝えてはいません。	○	評価の意義や活かし方をまず管理者がきちんと把握し、職員に伝えていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年5月より2ヶ月に1度開催し、状況報告や率直な意見交換をおこない、提案や指摘事項については、議事録を作成し、職員にも報告し改善に取り組んでいます。	○	これからも運営推進会議を通し積極的な意見の交換や改善をしながら、事業所の質の向上に役立てていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の窓口に行き、担当者と事業所の現況と、これからの指針などをお話し理解を深めていただいています。	○	町にも地域密着型のサービス事業所である事を認識していただき、意識的に目を向けていただけるよう、随時町と連絡を取り合い連携を強化したいと思っています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用者の中で、成年後見人制度を利用されている方がいるので、折にふれ職員にも説明はしています。	○	資料を作成し、地域福祉権利擁護事業と西南後見人制度について勉強会を開きたいと思っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が悪気がなく発した言葉や言動が、利用者または家族にとって不快な思いをしたとすれば、それは虐待に値すると言う事を職員には折りに触れ通達しております。表情・目線・声のトーンなど意識して対応をするように努めています。ご家族にもきずいたらいつでも報告してほしいことを伝えております。	○	ひたしくなるにつれ言葉遣いや対応が乱雑になってしまうよう、定期的に勉強会やミーティングの中で通達し遵守していきたいと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の時や入居契約時、重要事項説明書等の説明と一緒に話し、理解していただくように努めているつもりです。退所時にご家族と十分話し合いをし納得していただいた上で、転居先を決定するなど誠意のある対応に心掛けているつもりです。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々利用者の心身の変化を敏感に察知し、記録・ミーティング等で通達し、利用者が率直に素直に意見を言えるような環境作りをおこなうように心掛けています。変化が見えた時は、不満や意見を言いやすいように居室担当や管理者等が2人つきりでゆっくりお話しする時間を作り、解消してもらうようにしています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当より毎月「生活状況のお知らせ」とし、暮らしぶりや状況をお知らせしています。預かり金についても台帳・領収書を毎月お渡ししています。また、面会時には状況報告を行い、受診時の報告や心身の変化時も随時ご報告しご家族と職員が共有できるように勤めています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や利用料支払時など、職員の方から現況をご報告し、話す機会を作るようにしています。年に一度家族懇談会とし総会を開催しています。その際もご意見や、不満、苦情を遠慮なくお話していただくように伝えていますが、遠慮があるのかもしれない。	○ 現在家族会は発足しておりませんが、家族同士で話し合いをする機会を作るように、御家族代表ともに話し合い検討したいと思います。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月1回の職員会議・各ユニット会議には、管理者、計画作成者も参加し運営者の意見の報告や問題を共有している。また、シフトに入る事により、より身近な問題点や率直な職員の意見を聞けるように努めています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は、状況に応じた対応ができるように通常のシフトには入っておらず、利用者・職員の状態の変化に応じた対応ができるように体制をつくっている。また、パート職員を3名にする事により柔軟な対応ができるようにしている。また、緊急時は居宅介護支援事業所の職員の応援もお願いできています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニットの職員を固定し馴染みの関係作りをしているが、全職員が全利用者の状況を把握し、誰でも適切に対応できるように心掛けている。状況に応じ定期的に職員のユニット異動は行う必要があると考えている。利用者にも異動時は説明をおこなっています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修には、段階的に順番に参加している。また、研修報告を記載し、報告会をおこなっています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に登録し、定期的な研修会の参加、町の介護保険サービス事業所調整会議、ケアマネ交流会の参加、近隣のGHとの情報交換、各事業所のケアマネとの連絡を通じ交流を図っています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩所をもうけ、利用者から離れる時間を作っている。職員の動きや表情にも気をつけストレスや悩みを把握し改善するよう努めている。また、年2回の健康診断や有給をとれる体制を整えています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	理事長、グループホーム総括所長が頻繁に訪れ、入居者・職員の現況を把握し助言をして下さる。資格取得による手当で支給など、職員が向上心をもって働けるよう支援しています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みがあった時は必ずご本人と面談し、心身の状況や思いを把握し、職員に伝え少しでも意向に近づけるように環境を整え関係作りに努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が様々な思いを素直に話せる雰囲気作りに努め、不安なことや求めていることを事業所としてどのように対応していくかを時間をかけ説明し納得していただくように努めています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床により、当事業所で引き受けできないとしても、状況をよく聞き必要に応じて他の事業所の紹介や連絡調整なども行っています。	○	他事業所との情報交換を密にし、お互い協力していくようにしたいです。
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという事を念頭におきながら関わりを持つようにしている。家事にしても畑にしても尊敬の念にあたいする事は日々感じており、共に生活を支えあう関係を築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族には、入居者の状況をこまめに報告し協力を以来しています。職員と家族が一緒にご本人を支え、少しでも心地よくホームでの生活が持続できるように努めています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の思いとご本人の思いや状況を見極めて、両者の思いが結びつくような働きかけをしているが、うまく行く関係と難しい関係があり解決できない時があります。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容院や医院への受診対応や、友人宅へ遊びに行くなどの継続的な交流ができるように努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別の時間も大切にし、お一人お一人の話を聞くようにし、皆さんで過ごす時には、職員が間に入り入居者同士が楽しく過ごせるように配慮しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了しても、いつでも訪問していただくようお願いしています。また、他の事業所に移った方には、面会に行きま す。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。話をじっくり聞きご本人の意向をなるべくかなえる為にご家族とも話し合いの時間を多くもつようにしご協力をいただいています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より生活暦や家計図を記入してもらい、その方の今までの暮らしぶりを職員が把握し、話のきっかけ作りやその方を知るうえでの参考にさせてもらっています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の過ごし方を無理強いせず、お一人お一人の有する力と今の心身状態を敏感に感じ取り、総合的に判断し把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、家族からの意向を聞き、総合的に勘案し作成している。また毎月ケース検討会を開き、職員からの意見も十分に取り入れている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に合わせ区分変更を申請し、状況に合わせた計画書を作成している。家族や担当職員とも十分に話し合い、現状に即した計画作成に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアプランチェックを行い、一人一人のプランの意識付けを行っている。ケア記録、看護記録を記入し申し送りの徹底をする事により情報を共有しプランの見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	町で開催している介護予防教室に参加したり、子育て支援センターへの訪問、他のグループホーム訪問、公共温泉などを利用しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	町内に関しては、入居前のケアマネジャーが引き続き担当を行ってくれているため、随時現況を報告し助言等をいただいている。また、訪問マッサージや話し相手としての継続的なヘルパー利用なども行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居前からのつながりとして、地域包括センターの職員が来所され現況を把握されている。また、定期的な運営推進会議の参加により情報交換や協力関係を築いています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の段階で、かかりつけ医を継続するか事業所の協力医に変更するかを決め、受診や通院はご本人と、ご家族の希望に尾応じて対応をしている。各主治医の支持の元投薬介助や観察を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ほとんどの入居者が認知症の専門医の受診を受けており、随時相談し適切な治療を受けられる体制が築かれています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	各主治医の看護師とのつながりは良くなっているが、あくまで、医師の指示の元対処しています。	○	6月より看護師を配置し、入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を強化していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供、説明し、頻繁に見舞いまたは家族の状況により付き添いをし入院状況を把握している。また、退院に向け医師、看護師と話し合いを行い対処しています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	受診を一緒に行い、随時医師、家族と話し合い方針を共有するように努めています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	そのつど家族、医師、職員と相談しながらケースバイケースで対応してきたが、看護師を配置する事により、終末ケアについて事業所としての方針を構築しなければならないと思っている。	○	看護師を交えて、職員が同じ共通意識を掲げてケアができるように協議したいと思います。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所、病院へ移られる場合は、アセスメントや支援経過を手渡すと共に情報交換を行い、継続したケアができるようにお願いをしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々、排泄チェックを記録し、排泄時間やリズムを全職員が把握しており、利用者1人ひとりに合ったトイレでの排泄ができるように努めていますが、心身機能や意欲の低下などにより、おむつの使用回数が多くなってしま方もあります。	○	夜間などは「寝ていたほうがいい」と言う利用者がいたりする為、職員間で個々に合った最善の方法を常に話し合っているところです。意欲や身体機能の低下を予防することが重要であることを認識し、支援していきたいと思います。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日や時間帯などなるべく利用者の希望にそって入浴してもらっています。入浴を拒否される傾向の方に対しては、声がけや対応の工夫を職員間で話し合い、連携プレーで気持ちよく入浴ができるように支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めています。また、利用者1人ひとりの心身の状態に合わせて休息時間をとってもらえるように配慮し、声がけや誘導などをおこなっています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事や掃除・洗濯など家事全般や外周り仕事(畑作業や草取りなど)を利用者がすすんでおこなってくれるような雰囲気が出来上がっていると思います。声がけや見守りなど一人ひとりの力に合わせて無理なく楽しみながらおこなえるように支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの「預かり金」に関してはホームで責任を持って収支管理しております。家族の了解のもと、利用者の心身の状態や力に応じて、個人で所持金を自由に使えるようになっており、好きなものを買物したり面会された孫さんに小遣いをあげたりしてもらっています。	○	心身の状況により、自分で管理ができなくなった方に関しては、職員と御家族との判断の元お預かりする事にしていきます。また、そのむねをご家族へお話しています。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見や山菜採り・天然水くみなど季節に応じた外出はもちろんのこと利用者の心身の状態に合わせて外食や買い物・散歩など、天気の良い日は短時間でも外出し、気分転換・心の活性化をはかっております。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	受診のついでに自宅や友人宅に立ち寄りたりできる方もいます。また、みんなで近くの温泉に行つて1日過ごしてくることも年間行事の楽しみの一つになっています。	○	諸事情などにより、利用者1人ひとりの希望に添えない場合が多く、家族や親戚の理解を得ることや環境づくりに今後課題が残っていると思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などのやり取りは自由におこなってもらっています。年賀状など時候の挨拶もなるべく自筆で書いていただけるように職員がそばについて支援しております。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	当ホームへの面会者は多く、時間帯などもこだわらず受け入れをしております。訪問者に対しては笑顔を忘れず挨拶し、ゆったりと利用者と一緒に時間を過ごしてもらえるように心がけています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っているが、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を各自理解はしていないと思います。	○	基準を文章化し、職員に対し勉強会を行い、諸法律を理解していきたいと思っています。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	現在、日中玄関に鍵や居室に鍵をかけるなどの拘束はおこなってはいらぬ。職員も鍵をかけることの弊害を十分理解している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の様子はもちろん夜間も定時で巡視し、利用者の安全や急変などに対しては、十分に配慮しております。	○	夜間に居室に自ら鍵をかけて寝ている方もいて、プライバシーに配慮しながら安否確認をする難しさを話し合っているところ。利用者から理解を得る為に、随時、誠意を持って話をする必要もあると思っています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや針・カミソリなど危険な物品を所持している一部の方に関しては、個々の心身の状況や力に応じて任せたり職員が預かったりしております。預かるときは、家族とも相談し、自尊心を傷つけることのないように十分に注意して声がけをおこなっております。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年間を通じて火災訓練や避難訓練・緊急時の対応など定期的に訓練はおこなっており、日々の支援に役立てるように努めていますが、ちょっとした転倒など発生しております。	○	事故を未然に防ぐ知識や取り組みなど職員間でもっと勉強し、強化していかなければならないと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、地域の消防署より講師をお願いし、救命救急訓練(人口呼吸法や心臓マッサージ、傷の応急手当など)おこなっており、急変時や事故発生時に備えています。また、緊急時の連絡網に従い全職員が情報を共有できるように努めています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中はもちろんのこと夜間を想定しての避難訓練を地域の消防署と連携して年4～5回おこなっており、全職員が利用者に対して適切な避難誘導をおこなえるように努めています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の心身状態によって起こり得るリスクが異なる為、状態に合わせて家族や関係機関(主治医など)と十分に相談しながら、その人らしい生活を守る環境づくりに努めています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、必ず健康チェック(血圧・体温)をおこない、また顔色や食欲の有無などを常に観察おこない記録し、職員間で情報を共有し変化や異変の発見に努めています。	○	平成19年6月より、看護師が配置なる為、医療の専門的な視点から細かい観察をおこない、適切な判断や主治医との連携などが強化できるようにしたいと思います。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、看護師が配置されておらず、薬に関しては十分に理解しているとはいえません。家族の同意のもと、主治医や薬剤師と相談しながら適切な服薬が支援できるように努めています。	○	平成19年6月より、看護師が配置なる為、医療の専門的な視点から細かい観察をおこない、適切な判断や主治医との連携などが強化できるようにしたいと思います。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品や食物繊維などを摂ったり、定期的な運動をおこなうなど、なるべく日常生活から改善し自然排便が促せるように日々取り組んでいます。それでも慢性便秘の方に関しては、主治医から処方された整腸剤や下剤などを指示に従い変化時は相談しながら、支援おこなっています。	○	平成19年6月より、看護師が配置なる為、医療の専門的な視点から細かい観察をおこない、適切な判断や主治医との連携などが強化できるようにしたいと思います。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を職員間で理解し、毎食後の歯磨きや入れ歯の洗浄・うがいなどの声かけをおこなっていますが、力や気持ちに配慮しながら、見守ったり介助をおこなったりしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記録し、全職員が情報を共有しています。心身機能が低下して食べられなくなった利用者についても、主治医や家族と相談しながら形状や量・食べる環境やタイミングなどを考えアイデアを出し合い様々な面から支援していくよう心がけています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者および家族同意のもと、職員共にインフルエンザ予防接種を毎年受けています。また、いろいろな感染症に関して、情報収集をおこない全職員で学習し、食器類等の煮沸消毒や利用者や職員の手洗い・うがいの徹底など予防・対策に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日々の交替勤務の中、役割分担を決めて、調理器具・台所水まわりの清潔・衛生を保つよう実行しています。まな板や洗い桶・三角コーナーなど毎晩漂白し清潔を心がけています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	暖かさを大切に木造建築で、明るい雰囲気のあるように、花を生けたりプランターを置いたりして、季節感を演出しています。また、一般家庭と同じように畑を作りいろいろな作物を植え、立ち寄ってくれた方々から気軽に見ていただけるよう心がけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房や換気、加湿器などを完備して入居者が快適に生活できるように配慮しております。季節の行事に合わせて掲示物を貼ったり家具を飾ったり、華美にならず毎日の生活に密着した空間になるよう心がけております。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事を摂るところとは別にソファを置き、一人で過ごしたり仲の良い利用者同士でくつろいだりできるスペースをつくっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームとしては入居者の心身の状態に合わせて畳などを用意して、環境づくりに努めているが、使い慣れたテーブルや生活用品などを持ってきてもらっているのはまだ一部の方に限られてしまっています。	○	家族にも理解・協力していただき、自宅と変わりなく安心して過ごせる空間になるように努めたいと思います。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入換えや温度調節については、全職員が常に意識して換気や冷暖房等調節をおこなっています。温感の利用者によって個人差があるのでそれぞれ訴えがあった場合は誠意を持って説明し、衣服を調整するなど丁寧に対応しております。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを随所に設置しており、入居者の身体面の負担軽減などを考慮しています。また、心身機能の低下傾向にある入居者などへは生活のすべてにおいてリハビリであることを意識してもらい、安全確保しながら一緒におこなっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	心身の変化に応じて「どうやったら本人の力でやっていただけるか」を全職員で話し合い、本人の不安材料をできるだけ取り除き、力を活かせる環境づくりに心がけています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花のプランターを置いたり、畑のスペースを確保したり、利用者が日常的にすすんで活動できるような環境をつくっています。また、玄関先にベンチを設置し、利用者が座って日光浴などができるような工夫をしています。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

とにかく利用者の方々一人ひとりが、ゆったりと穏やかに生活ができるように心掛けています。
また、認知症に関して専門家になれるように、職員一人ひとりが専門医の指導のもと勉強をしております。